

医師のコロナ偽情報、責任どう問う 揺れる米国世論

米州総局 西邨紘子 2023年2月6日 日本経済新聞



新型コロナウイルスについて偽情報を発信する医師の責任をどう問うか、米国の世論が揺れている。科学的根拠や信頼性に欠ける「医療情報」をめぐっては、それに基づいてワクチン接種を拒否した人が相次いで感染死するなど、被害は深刻な社会問題となっている。西部カリフォルニア州は2023年1月、全米で初めて医師の偽情報発信を処罰対象とする新たな規制を導入した。だが、同法は成立直後から「言論の自由」の侵害を訴える複数の訴訟に直面し、実効性は不透明なままだ。

オハイオ州の小学校職員、ジェシカ・ワット・ドウアティーさん（46）は約1年前、同じ州に住む父親を亡くした。ワクチン接種を拒否した父親は、コロナ感染症が重症化。病院で呼吸器をつけ隔離されたまま「最後の別れも電話越しだった」（ジェシカさん）。

死後、ジェシカさんが見つけた父親の極右系 SNS（交流サイト）のアカウントは、ワクチンについての偽情報であふれていた。「聡明（そうめい）で理解ある素晴らしい父だったのに、なぜ」。今もやるせない思いを抱える。

ワクチンについての偽情報のまん延は、現在も米国で死者数が増え続ける一因となっている。米カイザー・ファミリー財団（KFF）は22年発表の研究で、米コロナ死者100万人（当時）のうち、4分の1がワクチン接種により「避けられた死」の可能性があると結論づけた。

米疾病対策センター（CDC）の公表によると、1月25日時点で米国のコロナ死者は累計で約110万人となった。25日までの1週間だけで、全米で新たに4000人近くが亡くなった。一方で、重症化の予防効果が見込めるオミクロン型対応の追加接種を済ませた人は、接種対象者の約16%にとどまる。

懲戒された医師はごくわずか

いっこうに減らないコロナの治療やワクチン関連の偽情報に対し、特に医療関係者が懸念するのが同じ医師による拡散だ。

「(コロナワクチンの)追加接種は、感染や入院、死亡リスクを高めます。ピエール医師が動画で詳細を説明します」。1月16日、米保守系非営利組織「アメリカズ・フロントライン・ドクターズ(米国で前線にたつ医師たち、AFLDS)」はツイッターに、白衣姿の男性が「最近の調査」について解説する動画を投稿した。

AFLDSは19年、カリフォルニア州の救急医療医師(当時)でトランプ前大統領支持者のシモン・ゴールド氏が設立。コロナの流行が始まった20年以降、SNSや講演会で反ワクチンの情報やワクチンの危険性を精力的に広めている。

21年7月には、州医療委員会の全米組織「州政府医療委員会連盟」が、SNSやメディアを通し偽情報を拡散する医師は「免許剥奪(はくだつ)などの懲戒の対象となり得る」と警告する声明を発表した。だが、実際に懲戒対象となった例はごくまれだ。

米シンクタンクのアスペン研究所は22年11月、偽情報問題を取り上げたリポートで「連邦政府には、この問題に取り組もうというリーダーシップが何ら見られない」と厳しく批判した。

「言論の自由」の侵害と反発も

そんな中、22年9月にカリフォルニア州で全米で初めて医師の偽情報発信を罰則対象とする「誤報防止法」が成立した。立案を後押ししたのは州内の医師5万人が加盟するカリフォルニア州医師会だ。

同州法は、医師が患者に対して「意図的」に「科学的根拠と矛盾し、標準的な医療から離れた情報」を伝えたケースで、医師会が職業上の規範に外れると判断した場合、その医師を罰金や免許剥奪などの懲戒対象と定めた。

カリフォルニア州のニューサム知事は新法への署名に際し「新しい考えや治療法について、リスクと利点を患者と話し合うのは誤情報や偽情報の例に当たらない」と強調した。それでも同法は成立当初から「医師の言論の自由を侵害する」と人権団体や一部の医師が強く反発。成立後に差し止めを求める訴訟が起こされた。

原告代表のトレーシー・ホーク医師は「新法は医師会の標準と異なる見解の表明に対する医師の自己規制につながり、患者との率直な対話を妨げる」と懸念を説明する。

米国では偽情報の発信も「言論の自由」であり憲法で保障された権利とする法解釈が主流だ。医療政策を専門とするスタンフォード大学法学部のミシェル・メロー教授は「特に共和党支持層では、発信する情報の可否判断を政府に委ねることが、権力による情報統制につながりかねないとの危機感が強い。商品の虚偽広告など例外もあるが、連邦レベルでの偽情報発信への規制を導入するのは難しい」とみる。

政治的な取り組みが立ち往生する中、被害防止に取り組む草の根活動も芽吹いている。ジェシカさんは、偽情報の深刻な影響について自らの体験を語るドキュメンタリーの制作に参加することを決めた。「コロナの偽情報は、健康を失う恐怖や孤独を糧に心に根を張る。少しでも同じ痛みを苦しむ人たちの助けになれば」と希望を持っている。